

令和8年度 自己評価計画書

							石川県立医王特別支援学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考	
(1) 授業実践力と専門性の向上	① 授業実践力の向上	教務課	個別に行う授業が多く、教師で授業評価をすることが難しい状況にある。各自の授業実践を共有し、評価し合うことで、児童生徒の病種や発達段階に応じた授業づくりをさらに充実させることが求められる。	【努力指標】 自立活動の授業を中心に少人数グループで児童生徒の実態把握や目標の見直しを行い、お互いの授業実践を共有したり、話し合ったりして授業の工夫や改善をすすめる。	少人数グループで授業実践を共有し、話し合いを通して振り返りを行い、授業の工夫や改善に取り組んだ教員の割合が A：90%以上 B：80%以上、90%未満 C：70%以上、80%未満 D：70%未満	B以上で達成 C、Dの場合は工夫改善を図る。	9月・2月調査を実施 【評価対象】 教員	
	② 保護者アンケートの活用	病棟訪問教育 小中高 教頭	令和7年度のアンケートでは、授業は児童生徒の実態に即した工夫がなされていると評価されたが、授業の目標や題材についても保護者と情報を共有して、より児童生徒の実態に即した授業づくりが求められている。	【満足度指標】 授業参観において、保護者が、児童・生徒の実態に即した授業が行われていると感じられる実践を行う。	授業参観の前に保護者に授業の目標を伝え、授業参観を実施し、その後のアンケートで、授業の目標が児童生徒の実態に即していると感じた保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上、90%未満 C：70%以上、80%未満 D：70%未満	B以上で達成 C、Dの場合は工夫改善を図る。	授業参観後にアンケートを実施（年間3回で評価） 【評価対象】 保護者	
	③ ICT活用能力の向上	総務課	本校の教育実践においてICT機器の活用は必須である。例年、ミニ研修会等で教師のスキルは向上しているが、ICT機器のさらなる活用に向けて、授業の活用について教師間で情報を共有し、学ぶ場面を設ける必要がある	【努力指標】 主体的にICT機器の活用について学ぶために、全ての教師がミニ研修会で講師又は話題提供者を務め、意識をもって学ぶ場面を設定する。	ミニ研修会で講師又は話題提供者を行った教師の割合が A：90%以上 B：80%以上、90%未満 C：70%以上、80%未満 D：70%未満	B以上で達成 C、Dの場合は工夫改善を図る。	9月・2月調査を実施 【評価対象】 教員	
(2) 安心安全な学校づくり	① 安全防災対策の充実	指導課	これまで危機管理マニュアルを整備し、学校の実情に応じた避難訓練や災害対応等に関する研修会を行ってきた。今後は大規模災害に備え、専門家等からの助言や意見を積極的に取り入れ、対応の改善や危機管理マニュアルの見直しを行う必要がある。	【成果指標】 専門家等の助言に基づき、本校の災害対応上の課題を知り、マニュアル等の改善を図る。	専門家等の助言や防災研修内容についてのチェックリストにおいて、災害対応上の本校の課題や改善点について理解している教員の割合が A：90%以上 B：80%以上、90%未満 C：70%以上、80%未満 D：70%未満	B以上で達成 C、Dの場合は工夫改善を図る。	2月調査を実施 【評価対象】 教員	
(3) 業務の効率化	① 効率的校務処理の推進	教頭 ICT 支援員 教員	業務効率化を各課で実施し、資料の省力化・電子化を行ってきたが、サーバーをはじめとするデータ等の整理が不十分である。教材については校内に点在しており、特に病棟訪問教育で必要とされるデジタル教材については所在が不明確である。そのため、デジタル教材の保管場所の指定と組織的な格納・整理のルール確立が必要である。	【成果指標】 デジタル教材の保存状況を確認し、教材の保管場所や格納方法、使用方法をルール化し、教員全員で教材を共有・利用できるよう整備を行う。	デジタル教材の現在の状況調査、保管場所や格納方法の整備、使用方法の共有、運用について a～b までを選択した教師の割合が A：90%以上 B：80%以上、90%未満 C：70%以上、80%未満 D：70%未満 a：デジタル教材の保管や使用方法が周知されている b：デジタル教材の格納場所の整備がされている c：クラウド共有フォルダ等の共有場所の周知がされている d：デジタル教材の所在について状況調査を行っている	B以上で達成 C、Dの場合は工夫改善を図る。	9月・2月末調査 【評価対象】 教員	